1月号
こどもがまんなかしんぶん
第030号 令和7年(2025年) 1月号

発　行　者：一般財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
理事長：安家 周一
東京都千代田区九段北4丁目2番25号
私学会館別館 4階
編集責任者：高尾 恵子
編 集・制 作：(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
株式会社パソナ日本総務部コトづくりチーム

子どもたちが暮らすまちのなかには、きっと未来への道しるべがある

生まれ育った町の魅力を感じることの大切さ

私は、奈良市のならまちという町で生まれ育ちました。奈良と聞くと大仏さんや鹿をイメージする人も多いかもしれませんね。奈良は1300年ほど前に飛鳥から都が移され、平城京として栄えました。なかでも、ならまちは外京（げきょう）と呼ばれるエリアを中心に国の官寺である元興寺や興福寺が建てられ、国の興（おこ）りとなった由緒ある地です。ならまちには古くから受け継がれてきた庶民信仰、庚申（※こうしん）さんがあり、それを継承しようと先代が、自宅の一部を改装して昭和53年に奈良町資料館を創設しました。若かったその当時の私は何とも思わず、都会に行けば好きな事ができると思い、奈良を離れて企業に勤めました。仕事で日本各地を転々とするなかで身にしみたのは生まれ故郷であるならまちの魅力でした。歴史に培われたもの、鹿や環境が人々の暮らしの営みとともに共存していることの素晴らしさに気づき、故郷に恩返ししたいという思いで奈良町資料館の館長を数年前から引き継ぎ、務めています。

※平安時代から貴族を中心に、庚申の日に安心・安全・健康を祈って神仏をまつり、近世には民間に広がり、日本人の文化として受け継がれ現在においては地域の文化として継承されている。

風情ある町に、鹿が訪れ人と共存するならまちの光景。

自分で町のなかを歩き、体験し、話す経験

子どもたちには自分が暮らす町に関心をもち、そこに住むことに誇りをもってほしい。そんな思いから、奈良町資料館に地元の小中学生を招き、時には学校に出向いて世界遺産学習という体験授業を行っています。ならまちで使われてきた生活民具や昔の町家の看板など、歴史の産物を子どもたちが手にして会話を交わしたり、クイズをしたり、体験しながら学べるような学習機会を設けています。座学も大事ですが自分で歩いて体験し、感じたことを言葉にして話す経験はもっと大切です。子どもたちと、いっしょに町を歩きながら「君たちが生まれたこの町、今歩いているここが世界遺産だよ」と話すと、自分のふるさとに誇りがもてましたといった感想や手紙を多くの子どもが記してくれることを嬉しく思います。

クイズ形式で町の歴史を紹介する南館長。昔の民具を使いながらの体験授業は、訪れる子どもたちに大人気。

「いつでもそばにいるから」心に染みた温かい人々の言葉

私は、人とのご縁やそれを紡ぐ言葉を大切にしています。思い返せば小学2年生の頃に父を亡くし、悲しくてどうしようもないときに周囲の人から「男の子やから、しっかりしいや」という言葉をかけられました。悲しみにくれているときに「しっかりしなさい」と言われることに困惑しました。そんなときに、近所のおばさんやおじさんが「大丈夫やで、いつでもあんたのそばにいるからな」と言って、ぎゅっと抱きしめてくれたことがすごく温かく感じられ心の支えになったことを今でも覚えています。そして寂しさに負けないために、学年中の男の子の家に遊びに行こうと決心して実行しました。実際に訪ねてみるとどの子も温かく迎え入れてくれ、友達の優しさにも心が癒やされました。そうした経験が今になっても、学級は違うのに交流が続く友達が多くいることにつながっているのかもしれません。

人と人が分かち合うことから思いやりが生まれる

奈良町資料館には、子育てにまつわる願い事とともに悩み事や心配事を口にされる方もお見えになります。私は、子育てをする保護者の方を元気づけてくれると思い、ドロシー・ロー・ノルトさんの著書『子どもが育つ魔法の言葉』（1998年刊・アメリカ）に書かれている言葉を掲げています。私には、「分かち合うことを教えれば、子どもは思いやりを学ぶ」という言葉が心に響きます。例えば子どもが良くないことをしているときに、どんな思いでそれをしているのだろうと子どもの気持ちになって考えてみることも大事。私なら子どもと手をつないで歩きながら、今日はなにかあったの？と尋ねてみます。私自身を思い返すと親に怒鳴られたり、叩かれたりしたことはありません。子育てをしていると子どもが親の思い通りにいかないことも多いかもしれませんが気持ちを分かち合うことを心がけてみてはいかがでしょう。

ご紹介したならまちには、いろんな人の営みがあり暮らしがあります。皆さんが暮らす町にも、きっと知らない魅力があると思います。それを親子でいっしょに探していくのも、子育ての楽しみのひとつではないでしょうか。

南　哲朗（みなみ　てつろう）

1962年、奈良県生まれ。大学卒業後、大手電機メーカーに勤務。2011年に近世の町家が建ち並ぶならまちにある「奈良町資料館（私設）」の館長に就任。何事も楽しみを見つけて！を基本に、観光と教育の連携を推進し小中学生を対象とした「世界遺産学習」や学生と社会人のオンラインフォーラム「ならまちリーグ」等を開催。2021年度より奈良教育大学の近畿ESDコンソーシアムにおいて、「持続可能な社会の創り手」を育成する為の構成団体メンバーとしてESDの普及活動に専念。

奈良町資料館↓↓↓
https://naramachi.co.jp